

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名	あべの作業所（あべのキッズプラナ）				公表日	2026年3月6日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	7	・机の配置を真ん中ではなく端に置き、動線を確保している。 ・児童の特性や人数等で部屋を分けて柔軟な対応をしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	5	・厚生労働省が定める指定基準を遵守し、児童2～3名に対し、職員1名以上を配置している。 ・外出プログラムにおいては基準以上の職員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	5	・玄関に段差があり、階段もあるため、完全なバリアフリーではないが、段差がある場所などでは危険がないようにスタッフが見守り、声かけを行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	1	・あべの作業所の利用者に毎日清掃作業を行ってもらい、清潔を保っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		・訓練室とは別に絵本室と更衣室があり、状況や必要に応じてスタッフが付き、使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10		・毎日の朝礼・振り返り・週1回の打合せで都度行っている。 ・会議では個別支援を中心に話し合い、業務改善についても意見を出し合い取り組み、職員が共通理解できるよう伝達している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・送迎の際にも保護者の意向を聞き、寄り添い、常に考え、つなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	・月に2回職員会議を実施し、その中で職員の意見を把握し、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	2	・月に1回、所属長会議を実施し、法人内他部署との意見交換を積極的に行い、業務改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		・外部研修に積極的に参加し、月1回法人全体での研修や施設内研修に積極的に参加している。阿倍野区自立支援協議会主催研修には、原則職員全員で参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		・支援プログラムを作成し、ホームページにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		・半期に1度、保護者から個別支援計画に対してのアンケートを取り、モニタリングを行い、保護者の意向を反映させて作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・会議では個別支援を中心に話し合い、支援についても意見を出し合い取り組み、職員が共通理解できるよう伝達している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	1	・月2回の会議で、計画について確認を行い、職員が共通理解できるよう伝達している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		・標準化されたアセスメントツールも参考にしながら、事業所独自のアセスメントツールを作成し、判断する方針をとっている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		・「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」を踏まえながら個別支援計画にも反映させている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	・月2回の会議でプログラムの立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	1	・3年分のプログラムを比較し、固定化しないよう季節に応じたプログラムを作成している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		・生活面、外出時と分けた上で総合的な支援目標も設定し、個別支援計画を作成し、実践している。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		・支援前に必ず朝礼を行い、支援内容や役割について確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		・支援終了後には振り返りを行い、終礼報告書を作成し、情報を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		・サービス提供記録を作成し、保護者への報告とともに終礼用紙を作成し、職員の振り返りにも生かし、支援の改善につなげている。	
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		・少なくとも6か月に1回は、モニタリングを行い、計画の見直しを行っている。 ・会議でも個別支援計画について話し合い、見直しの必要性を判断しながら、話し合っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	10		・ガイドラインに沿った内容でプログラムを考え、複数組み合わせながら提供している。 ・スタッフ間で定期的に会議を行い、活動について話し合い、支援に生かしている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	1	・プログラム内容に合わせてこどもが自己決定できる機会を作り、できた時に認め、自己決定力を育てている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		・基本的に児童発達支援管理責任者が参加し、子どもの状況を伝え、他事業所での様子をスタッフ間に伝達し、共有できるようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1	・地域の医療機関と連携し、自立支援協議会を通じて各関係機関と連携を取りながら支援している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		・学校との支援会議を実施し、互いの個別支援計画を基に支援に対する情報共有や統一化などを図っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	2	・基本的には保護者様にヒアリングを行い、必要に応じて関係事業所と連絡を取り合い、相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10		・保護者様の同意を得た上で、作業所と引継ぎ会議を実施し、円滑に支援内容や情報提供を行うなどしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	2	・職員研修や保護者会などの研修会で、専門機関から助言を受けたり、手帳の更新に同行して助言や研修を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	5	・近くの公園や外出先などで遊ぶ機会に地域や外出先の子どもたちとかわり遊ぶことがある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10		・阿倍野区自立支援協議会・障がい児部会などに積極的に参加している。また、運営委員として協議会に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		・日々の連絡帳等を活用し、随時状況や課題について話し合いながら進めています。また、送迎時にも保護者様に子どもの様子を伝え、共通理解を図っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10		・支援方法について、随時相談や助言などを行っており、専門の講師を招いて保護者会での講演を開催している。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		・契約時に運営規定、支援内容、利用者負担額等について、丁寧に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		・半期に1度、保護者アンケートを実施し、保護者の意向や子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		・契約時に放課後等デイサービス計画について、丁寧に説明し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		・保護者様からの相談など、日々の連絡帳で受けたり、必要に応じて面談を行ったりしながら助言や支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10		・半期に1回、保護者会を開催し、プログラム内容を体験していただいたり、研修会を実施したりしながら保護者同士の連携を支援する機会を設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		・苦情を受けてから早急にスタッフ間で話し合い、対応している。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10		・月1回、次月の予定表と通信を配布し、週1回ブログを更新して活動概要などの情報を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		・個人情報は鍵のかかる書庫で管理し、職員には誓約書を取り交わしている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		・電話などで伝達しにくい場合は、直接お話ししたり、ボディランゲージ等を使って意思の疎通を図るように配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10		・地域の福祉行事に積極的に参加し、その際に招待している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		・ホームページにマニュアルを公表し、周知するとともに、事務所にマニュアルを設置し、随時閲覧できるようにしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		・年に2回の作業所合同避難訓練に加え、事業所内避難訓練も行っています。防災センターでの学習を子どもたちと一緒にしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		・アセスメントを基に職員間で情報共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		・アセスメントを基に職員間で情報共有し、医師の指示書を確認して対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		・安全管理についての外部研修や協議会の研修参加し、安全管理について意識を高めながら支援している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		・半期に1回、保護者会を開催し、プログラム内容を体験していただいたり、研修会を実施したりしながら避難経路を一緒に確認するなどし、周知する機会を設けている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		・ヒヤリハットが発生した場合には、早急に報告書を作成し、スタッフ間で共有し、意識の向上に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		・積極的に外部研修に参加したり、伝達研修等を実施したりして職員の資質向上に努めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		・現在該当児がいないことに加え、身体拘束を行わなくても対応ができるよう日頃から信頼関係を築いているため、今のところ計画に記載する必要がない。	